

先輩の一人として—これからの長い歳月のために—

下定 雅弘(東アジア国際協力・教育研究センター教員)

語学研修に参加した皆さん。一年の方も、短期の方もお疲れさまでした。皆さん、とても有意義な楽しい研修だったようで、文集を読んでいて幸せな気分になります。語学だけでなく、人間関係や、生活、文化などさまざまな面で、驚きと感動を味わい、新しい力を得て、これからの出発点にしようとしている活力が伝わってきます。

私が学生・院生の頃は、中国と日本はまだ国交を回復しておらず、中国に留学することはできませんでした。私が大陸に初めて行ったのは30代も後半になってからです。民間の会社が企画する北京外国語大学での一ヶ月の研修に参加したのです。その時の感動はほとんど皆さんと同じです。それからほぼ三十年、一年の北京暮らしを含めて、何度中国に行ったか、数えようとしても多すぎて、いつも止めてしまいます。

一ヶ月は刺激を受ける時間としては十分です。一年以上行きたくなります。そして、一年暮らしてみると、二年三年と暮らしたくなります。実際に何年も暮らすことはあまりないでしょうが、この経験は、結局、一生を支え、一生を豊かにしてくれます。皆さんのこれからの人生の充実を願っています。

ところで、その皆さんのこれからのことを思うと、ぜひ伝えておきたいことがあります。中国を好きになった皆さんだから言うておきたいことです。それは、中国で事故に遭わない三原則というものです。

1、気をつける。2、めだたない。3、スケジュールを他人に教えない。

これは、1995年の春、阪神大震災の直後、北京で、大使館の日本人関係の事故を管轄する領事の方からうかがいました。外務省が数十年にわたる世界各国での事故から導き出した教訓だそうです。当時、留学生が巻きこまれる事故が中国で多発したため、防止するための講演会を大使館が開いていました。そこで教えてもらったのです。この三つはどれも奥が深いものです。少しだけ補足します。

「1、気をつける」は、当たり前すぎることのようにですが、これが基本です。過信は禁物です、慣れて油断するといけません。空手の達人が事故に遭った例を出しておられました。

「2、めだたない」は難しいことです。言葉ができなければ、すぐに外国人・日本人だとわかってしまいます。服装は気をつけていても、中国人と同じ感じにはなかなかありません。領事の方は、礼儀正しくしろ、どこに行っても、まず中国人がどうするかをしっかりと観察してそれから動け、とおっしゃっていました。

「3、スケジュールを他人に教えない」も重要です。スケジュールを気軽に友人?と思っただ人に伝えたために、事故に遭ったケースが多いらしいです。もちろん、信頼できる先生や友人にはちゃんと伝えて旅行などに出なければなりません。

せっかくの楽しい文集の中に、これはどうか?と迷いましたが、どうも他に適当な場がなさそうだし、これからの長い人生、中国とつきあっていく皆さんにぜひとも伝えておき

たいことなのです。

この研修の企画がずっと続きさらに発展して、たくさんの岡山大学の学生たちが、自分の人生を豊かにすることを、心から祈っています。

2011.12.27